

令和八年度 入学式 校長式辞

式辞 海洋高校が立地する当地、穏やかな栗田湾の水面を渡る風にも、暖かさと柔らかさを感じられ、そして生き物が躍動する春が訪れました。

新入生の皆さん、ようこそ京都海洋高等学校へ。教職員や在校生も、皆さんの入学を待っていました。心より歓迎いたします。

本日ここに、令和八年度入学式を挙げるにあたり、新入生を激励していただきますために、公私ともに御多用の中、海上保安学校校長先生を始め、御来賓、そして保護者等の皆様、多数の御臨席を賜りました。高段からではございますが、心よりお礼並びに感謝申し上げます。

ただ今、入学を許可しました七十三名の新入生の皆さん、入学おめでとう。

今年度、ここに集う入学生半分近くは、府南部又は他府県の出身者で、初めて親元を離れ寮・下宿生活を始めましたし、朝早くからの移動を伴う遠距離通学となる生徒も多くなります。

皆さんは、九年間の義務教育を終え、思い続けてきた夢を叶えることを目標に本校を志願し、自分との戦いでもあった厳しい受検勉強や選抜試験を通過して、海洋高校生としての第一歩を踏み出しました。水産・海洋の分野に熱い思いと期待を携え、わざわざ京都海洋高校を選んでもらえたことに、深く感謝するとともに責任の重さと使命感を感じております。

本校は、今年で百二十九年目を迎える伝統校であります。また、近畿地方で唯一、教科「水産」を履修する専門学科単独の水産・海洋系高校で、海と直結する恵まれた立地条件を生かしながら、地域の未来を拓く水産・海洋のスペシャリストや、社会の進展を牽引する有為な人材の育成に取り組んでいます。

この三月に卒業した先輩のほとんどが、学習内容の延長にある関連業種や公務員に就職し、進学でも、数名の国公立大学を始め、複数の水産・海洋系四年制大学、スポーツ推薦での大学進学等、一人一人が妥協せず、それぞれが納得できる質の高い希望進路の実現を果たしました。

これから皆さんが取り組む海洋高校での活動には、国語・社会・数学・理科・英語などの普通教科の学習に加え、中学校までに触れることのなかった実習船「みずなぎ」を始めとする充実した施設設備を生かした水産・海洋の学習・実習、研究や探究の活動、部活動、ボランティア活動、幅広い分野の資格取得、生徒会などの委員会活動・図書館活動、学校外での体験実習、そして希望進路の獲得などなど、将来のキャリアにつながる、一人一人が主役のさまざまな取組や環境、即ち新しい自分に出会えるチャンスが、豊富に用意されています。

多くの部活動でも、京都府、近畿、全国、世界へと活躍の範囲を拡大させています。

仲間や先生との出会いも大切にしながら、どうか貪欲に、決して遠慮したり、戸惑ったりすることなく、勇気を持ってこれらのチャンス逃さず、厳しいことにも果敢に挑戦し、人生をより良い方向に変える三年間にしていきたいと思えます。

高校の三年間は一生に一度だけで、どのように幸せな生活・人生を送ることができるか左右する、大変大切な期間です。長いように思われているかもしれませんが、卒業して

いった先輩方や保護者の皆様は、「あっという間だった。」と言われます。

今日から、皆さんとともにお互いを高め合い、卒業する時に、海洋高校で学んでよかったと思える高校生活、そして成長を感じることでございましたら幸いです。

後になりましたが、今日の喜びの日を迎えるにあたり、お子様の成長を温かく見守り、支えてこられました新入生の保護者の皆様、本日のお子様の御入学、誠におめでとうございます。

高校生となられたお子様の姿をご覧になり、期待を高められ、感慨もひとしおであろうと拝察いたします。

高校生が、心身ともに健やかな成長を遂げるためには、乗り越えなければならぬ多くの試練が、必ずあります。その厳しい試練を克服するためには、家庭と学校が深く連携し、信頼し合える関係を保つこと、すなわち、教職員と御臨席の皆様が協力してお子様の成長を促すことが必要となります。

本校が学びの場（フィールド）としている「海」では、いたましい事故が多く発生しています。本校では、危険が伴う授業・実習でも安全を最優先しています。その中で、規律ある行動を特に求めており、生徒指導の面で厳しいと感じられるかも知れません。

どうか、海洋高校の教育活動に御理解並びに御協力を賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。

結びに、私ども教職員一同は、皆様の思いに込めるため、そしてお子様が、人生百年時代に、将来にわたり、より幸せな人生を歩んでもらえるよう、卒業式の日を目標に、誠心誠意、全身全霊を捧げて支援していく決意でございます。

以上、新入生の皆さんが満足でき、充実した高校生活を送ってもらうことを、強い思いで願ひ式辞といたします。

令和八年四月九日

京都府立海洋高等学校 校長 上林 秋男